

未来へ夢を育む学校



学校だより

(題字 学校長)

2月号 学校長 望月 重晴



二つの受賞報告 ～文部科学大臣表彰とソニー教育財団最優秀校～

副校長 岡崎 大輔

「最強寒波」の到来によりプールや池、水たまりまでも氷が張りました。早速1年生が校庭に出て氷の観察をしています。子どもたちは氷を見ると、まず初めに凍った水たまりの上に乗って、運動靴でスケートをします。つるつる滑るのが楽しそうです。破片を手に取り、にこにこしながら透명한氷を見つめています。私も子どもの頃、同じことをして遊んでいた記憶が蘇ります。霜柱を踏みしめて、靴の汚れなど関係なくザクザク感を楽しんだ経験があると思います。子どもを見ていると直感的に楽しむ「あそび名人」ぶりは今も昔も変わりません。自然の事象にふれながら、知識や経験と結び付けて知見として深まっていくのです。



氷越しの1年生

さて、この紙面をお借りして皆様にご報告が二つございます。

一つ目は、「コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進」について、文部科学大臣表彰を受賞することとなりました。白幡小学校学校運営協議会と白幡小いちょうの会による土曜塾をはじめとする様々な取組を評価していただきました。土曜塾での学習支援の他、企業連携（GODAI）による体力づくり、緑の環境づくり（花植え隊）や登下校の見守り（学援隊）、読み聞かせ（くるみの会）など、地域の方々と連携協働して幅広い活動が展開され、学校が子どもたちを育むまちづくりの中核となっていること。また、学校運営協議会を中心に、長きに渡り、保護者や地域の方々の強みを生かして、学校行事支援を含めた取組や子どもたちの学習への支援を年間通じて多方面から支えていること。これらが評価対象となり、今回の文部科学大臣表彰となりました。2月3日に行われる文部科学省での表彰式には、学校代表として学校運営協議会委員長の松永 秋男様にご臨席いただきます。

二つ目は、ソニー子ども科学教育プログラム「教育実践論文」において、最優秀校として受賞いたしました。審査講評には『子どもの「自覚的な学びのくりかえし」に着目し、工夫ある教育構想と手立てが実践されており、子どもの表情やノートの豊かな記述を通して、生き生きとした子どもの姿や変容が実証的かつ分析的だった。また、科学的な視点をもとに主体的・協働的に活動する様子や、タブレット端末を使いこなす今の時代の「科学が好きな子ども」の姿が評価された。』（審査講評より一部抜粋）とあります。本校の子どもたちの学びの姿をこのように評価していただけたことは、大変誇らしく思いますし、これまで取り組んできた研究活動の成果とも受け止めています。

いずれにしても、この二つの受賞は本校が長い月日をかけて積み上げてきたものが評価されたものであり、これまで本校に携わってきたすべての皆様の結果です。感謝申し上げると同時に、本校にとっても大変喜ばしい受賞となりましたことをご報告いたします。これからも子どもたちとともに学び続ける白幡小学校であることを再確認し、皆様には今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

※受賞内容の詳細はこちらホームページをご覧ください。

・文部科学省ホームページ <https://manabi-mirai.mext.go.jp>

・ソニー教育財団ホームページ https://www.sony-ef.or.jp/program/result_school.html